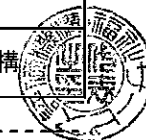


# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4676900113号
法人名	医療法人 共生会
事業所名	びろうの樹
訪問調査日	平成 22 年 3 月 17 日
評価確定日	平成 22 年 5 月 10 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構



### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4676900113号		
法人名	医療法人 共生会		
事業所名	びろうの樹		
所在地	鹿児島県市志布志市有明町野井倉6166-1 (電話) 099-474-0033		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成22年3月17日	評価確定日	平成22年5月10日

【情報提供票より】 ( 22年2月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 1月 22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤14人 非常勤2人	常勤換算15.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 平屋 造り		
	1階建ての 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他(日額)	500 円	
敷金	有( 円) ○無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) ○無		有りの場合償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 ( 2月 15日現在 )

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	9名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.5歳	最低	70歳	最高	101歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	びろうの樹脳神経外科	飯山歯科医院
---------	------------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、びろうの樹という名の脳神経外科と整形外科を持つ医療法人が設立している。医療施設の近くに通所リハビリテーションや小規模多機能ホーム及びショートステイなどの介護保険事業所がある。入口には、ポニーや山羊が飼育され、畑などがあり、なごやかな雰囲気がある。2ユニットのホームの利用者や職員は、ひとつの家として交流し生活している。医療的な支援が背景にあり、日々の支援も万全である。地域の介護や認知症対策の支援・交流の場となるよう情報発信にも取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策については、消防署の指導のもと、年2回昼・夜間を想定した訓練を近隣住民の協力をもらいながら行っており、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は評価の意義について話し合い、全員で自己評価に取り組み、日常的なケアの繰り返しでなく、利用者の個々に視点を置いた一段と深い取り組みをめざすなど、ケアの振り返りの機会としてとらえている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は多くの参加者を得て定期的開催されている。高齢者グランドゴルフ見学の呼びかけや、駐在所からの独居老人の相談に対して相談機関を紹介している。また、認知症セミナーに全会員が参加できる取り組みを、検討するなど会議が活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は、面会時や行事来訪時に家族と話す機会を作り、意見を出しやすい雰囲気作りを心がけている。外に出る機会を多くして欲しい等の意見等に対して、職員で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の会合や奉仕作業に参加している。回覧板にてホーム行事や理念を啓発し、老人会やボランティア訪問、中学生、専門学校生の職場体験等の地域との交流に繋がっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支 えていくサービスとして、事業所独自の理念をつ くりあげている	地域密着型サービスの意義とその人らしく暮ら せる支援を職員全員で確認し、家族や地域の人 たちとの絆を重視した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	理念をホームの目に付きやすい所に掲示し、管 理者・職員は、理念を指針とし、日々のケアに 活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、 自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の会合や奉仕作業に参加 している。回覧板にてホーム行事予定や理念を お知らせしたり、老人会やボランティアの訪 問、中学生・専門学校生の職場体験等を行って いる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義について話し合い、 全員で自己評価に取り組んだ。日常のケアの繰 り返しでなく、利用者のパターンを決めずに 個々の思いを大切にとの意見が出て、ケアの振 り返りの機会としてとらえている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かして いる	会議は多くの参加者を得て定期的開催してい る。高齢者グランドゴルフへの見学呼びかけや 駐在所からの独居老人の相談に対して相談機 関を紹介している。また認知症セミナーに会 員全員が参加できる取り組みを検討するなど、 会議が活かされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に運営やサービスについて相談したり、支援状況を報告している。また、ケアマネジャーの勉強会にも担当者が参加して協力関係を築いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行しているホーム便りを送ったり、面会時や電話・通信等で、日々の暮らしぶりや身体状況・職員異動・金銭管理を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族が面会時や行事来訪時に話す機会を作り、意見が出しやすい雰囲気作りに心がけている。外に出る機会を多くして欲しい等の意見が出て、意見等に対しては、職員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者・家族等との、馴染みの関係を重視したケアを心がけている。やむを得ない異動の場合には、馴染むまでその人と接し、ダメージを受けないように取り組んでいる。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成している。外部研修は段階に応じた研修に参加し、月一回ホーム内の勉強会時に研修報告をして、職員の技術や知識の向上に努めている。また資格取得者も数名おり、資格取得希望者に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡協議会主催の交流に一部の職員は参加しているが、職員が他の同業者と交流する機会はこれからである。	○	職員が地域の同業者とネットワークづくりや勉強会・相互交流を行い、質向上を目指す取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅等に行き、本人や家族に面談し、生活歴や思いを十分に聞いている。また、馴染めるようにホームの見学や職員とのコミュニケーション作りに努め、納得して不安なく入居してもらえるように取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として、敬う気持ちを大切にしている。調理の仕方を教わったり、職員に対するねぎらいの言葉かけに感謝するなど支えあっている。家族等の来訪時や飼っているポニーや山羊とたわむれている利用者の笑顔に癒されながら、日々を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、その人の行動・表情・言動を観察して、職員で話し合っ、思いや意向の把握を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴・希望を把握し、家族等の思いを聞き、カンファレンスで職員の意見や気づきを出して、それらを反映した、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しをしている。退院後や状態変化に応じてモニタリングを行いカンファレンスをして見直しに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっている。病院受診・自宅訪問・理美容院送迎・買い物等、柔軟な支援をおこなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等が希望しているかかりつけ医の受診を支援している。往診が継続できるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対応して、指針が定められており、職員も共有している。また、家族の同意書もあり、現在看取り介護に取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため、尊厳に対する勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の時間の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、できるだけ個別性のある支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感や利用者の嗜好を取り入れた食材と一緒に食事作りをしながら、職員と楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人が希望する時間に入浴支援をしている。夕方の入浴支援変更により、頻尿が解消されたり快眠に繋がり、利用者の喜びとなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ビール缶利用のボーリングや風船バレー・歌・調理の手伝い・ポニーや山羊とたわむれる等、入居者の趣味や特技を發揮できる様にしている。また、喫茶店やドライブに出かけて気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物・ドライブ・敷地の中に飼っているポニーや山羊とたわむれながら、ホーム周辺を散策するなど、外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中、鍵をかけずに、プライバシーに配慮しながら見守りに努め、安全に自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署指導のもと、昼・夜間を想定した訓練を近隣住民の参加をもらいながら行っている。災害時の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量の摂取量を把握している。身体状況に合わせて食事形態も変えており、栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく木の香りが漂い、温度・換気・音・採光に配慮が行き届いている。季節行事の飾り付けや花が随所に飾られており、生活感あふれる居心地のよい共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌・ラジオ・時計・ぬいぐるみ・洋服がけ・家族写真・作品など、馴染みの物が持ち込まれている。また、各居室に押入れもあり、整理が行き届き、居心地よく過ごせる居室である。		

※  は、重点項目。